

第 23 回猪名川部会（2004.11.2 開催）結果報告		2004.11.16 庶務発信
開催日時：	2004 年 11 月 2 日（火）16：00～19：10	
場 所：	天満研修センター 9 F イベントホール	
参加者数：	委員 10 名、河川管理者（指定席）9 名、一般傍聴者（マスコミ含む）66 名	
1．決定事項		
・ 次回の猪名川部会は 12 月 3 日（金）14：00～17：00 天満研修センター 9 F にて開催する。		
2．審議の概要		
事業進捗点検に関する報告と意見交換		
各委員より、各々が担当した河川整備計画進捗状況報告への意見について、資料 1「事業進捗に関する委員からの意見」を用いて説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。		
○ 環境に関する事業進捗点検について		
・ 事業進捗点検は、個々の事業の点検ではなく、時間的なもの、流域全体への影響等を踏まえて、全体としてどうなのかを考えるべき。		
・ そもそも河川に外来種が入ってこないよう根本的な改善が必要。フラッシュ放流やブルドーザーによる土砂移動によって河川の物理的な環境を変えて、外来種が生えない条件を整える必要がある。		
・ 帰化した外来種は非常に生命力が強い。外来種駆除による影響を検討している間に、どんどん拡大してしまう。外来種は速やかに駆除していくべきだ。外来種が河川に入ってくるのを防ぐのは無理だろう。生態系に甚大な影響を与える優占外来種（アレチウリ等）は徹底して駆除していくべきだ。		
○ 治水に関する事業進捗点検について		
・ 資料 1 には「緊急堤防補強区間の選定が昭和 35 年 8 月洪水による想定被害図を元に選定された」との意見があるか、河川管理者に事実確認をお願いしたい。		
← 背後地への被害影響の観点から人家が密集している区間、氾濫が拡大する区間等の緊急に整備すべき条件を参考に選定した（河川管理者）。		
・ 過去の治水計画によって作られた高水敷を切り下げることが可能なかどうか。河川管理者はその可能性について説明し、それが無理ならどういう対応が必要なのか、議論しないといけない。		
・ 越水する可能性の高い地域（善法寺地区）で、越水対策をしないまま、浸透・洗掘対策を中心とした堤防強化を進めることには賛成できない。		
← 善法寺地区は、浸透・洗掘対策がどうしても必要なため、早急に実施しなければならないと考えている（河川管理者）。		
・ 「いかなる洪水に対しても破堤による被害を回避・軽減する」という大目標を達成するために、現在実施している事業が適当なのかどうか。浸透・洗掘対策によって堤防が強化されるのは確かだが、大目標を達成するために河川管理者にはもう一步を進めてほしい。また、高水敷を今後どうしていくのか。環境に配慮した治水について考える必要がある。（ダムWGリーダー）。		
○ 利水に関する事業進捗点検について		
・ 尼崎の工場跡の再開発によって尼崎市の工業用水に新規水需要が発生するのかどうかまで含めて、利水者の水需要の精査確認を急いでほしい。		
○ ダムに関する事業進捗点検について		
・ 狭窄部上流の浸水被害対策案は、ダムの代替案ではない。ダムの是非にかかわらず、やらなければならないことだ（ダムWGリーダー）。		

- ・多田地区はどれだけ対策をしても、浸水被害を解消することはできず、今後も浸水被害に見舞われる。本来、人家が密集する場所ではなかったという点から長期的な流域対応を考えるべきだろう(ダムWGリーダー)。

狭窄部上流の目標洪水に関する報告と意見交換

河川管理者より資料 2「猪名川狭窄部上流の目標洪水について」を用いて説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り(例示)。

- ・目標洪水として銀橋地点のピーク流量が既往 2 位の昭和 58 年 9 月洪水を選んだとのことだが、論理性、説得性に欠けると思う。他の地域との整合性を考慮しながら、再考すべきかもしれない(ダムWGリーダー)。
- ・資料 2 の P2 の表がわかりにくい。比較検討しやすいようにしてほしい。実績の雨量と流量、現況整備で一庫ダム操作なしの場合の流量、現況整備で一庫ダム操作ありの流量、余野川ダムありの流量。この 4 つを比較検討できるような表をお願いしたい。特に、余野川ダムありの場合の流量は、すでに検討結果が出ているのではないのか(ダムWGリーダー)。
 - ← 現在計算をしているので、完了次第、お示ししたい。第 8 回ダムWG(11/10)でお示しできるよう努力する(河川管理者)。
- ・目標洪水を簡単に変更しても良いのか。川上ダムでは、目標規模の変更については、現計画の治水安全度との比較を行っている。また、地元住民への説明はどうするのか。
 - ← 現計画の狭窄部上流の目標洪水である昭和 28 年 9 月洪水に対しても浸水被害が軽減するように併せて検討を行っていく(河川管理者)。
- ・20～30 年で銀橋上流の浸水被害は解消できないが、できるだけ被害を軽減していくという考え方が良いと考えている。河川管理者は「目標は既往最大洪水とするが、対応できるのはここまで。河川整備だけでは対応できない」と明確に言った方がよいだろう(ダムWGリーダー)。
- ・既往 2 位を選んだのは、浸水被害を解消できる見込みがあるからなのか。浸水被害を解消できるのが既往第何位までなのか、河川管理者は明らかにしておくべき(ダムWGリーダー)。
 - ← 昭和 58 年 9 月洪水であれば、さまざまな案で何とか対応できるという感触は持っている(河川管理者)。
- ・流域住民にとってわかりやすいのは既往最大だろう。「既往最大の実績洪水を目標に浸水被害を軽減していく」という説明の仕方が、住民にとって一番わかりやすい。
- ・狭窄部を一部開削した場合の検討結果も示した方が、地元の住民にとって、よりわかりやすい。
 - ← 開削を実施しないのが原則だが、下流への影響がクリアできるなら、開削もあり得る。開削についてはこれまでも検討してきているので、今後も引き続き、検討を続ける(河川管理者)。

3. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者 1 名より発言があった。主な意見は以下の通り(例示)。

- ・委員会は、河川管理者に水需要の精査確認の結果を早急に求めるべきだ。多くの利水者が、今後の方向性を決めつつある。全ての利水者の精査確認が出そろうのを待つ必要はない。

以上

このお知らせは委員の皆様主に主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。